

平成30年度 機能性食品研究会講演会・第1回研究会 「「食」の研究開発の目指すところ」

開催日時：2018年6月14日（木）13:30～15:30

開催場所：（一財）バイオインダストリー協会

参加人数：48名

今年度から新会長にお迎えした宮澤 陽夫氏（東北大学未来科学技術共同研究センター教授）より、「産学官で機能性食品を議論する場としていきたいと」の抱負を述べられた。

ひき続き宮澤氏より、「東北大学（東北地方）を拠点とした「食」の研究開発の動き」と題し講演をいただいた。東北大学未来科学技術共同研究センター（NICHe）は、社会の要請に応える新しい技術と新しい産業分野の創出を社会に提案することを目指して、産業界との共同研究の推進を図り、先端的かつ独創的な研究開発を行うことを目的としている。宮澤氏は、同センターのライフサイエンス分野で「戦略的食品バイオ未来技術の構築」を担当されており、本機能性食品研究会会长への就任にあわせて、東北大学を拠点とした「食」の研究開発の動きを紹介いただいた。「ダイナミックで非常に元気の出る講演だった」との声が聞かれた。

続いて、元農林水産省で国際派と知られた、鹿児島県大隅加工技術研究センター所長の岩元 瞳夫 氏（元農林水産技術会議事務局研究総務官、同事務局長）に、欧米との違いから「食」の研究の在り方について、「機能性食品に関する日本と海外の法的位置づけの違い」と題してご講演いただいた。

欧米の研究は「食」が出発点であるのに対して、日本は「医薬」が出発点となっている。前半は機能性食品をめぐる制度の変遷について丁寧に振り返っていただき、後半は、昭和23年の旧薬事法では欧米と同じく「食」が出発点であったのに、なぜ現在のように「医薬」の下に置かれるようになったかについて、いくつもの大きな分岐点があったということを丁寧に説明された。続けて、米国の食品機能制度の先行を具体的に知り、ショックを受けた聴講者も多く、「暗澹たる思い」「日本は「食」に対していびつだ」「海外には大きな市場があるのに、このままではよい食品があっても海外に売りに打って出られない」などの声が聞かれた。

（担当：秋元、矢田）



（写真は左から、宮澤 陽夫 氏、岩元 瞳夫 氏、会場風景）